



くらしとびみ

第3回 レジ袋の有料化と「MOTTAINAI」の心

金子 泰純

「MOTTAINAI」をご存知でしょうか。環境分野で初のノーベル平和賞を受賞したケニア女性のワンガリ・マータイさんは、「もったいない」という日本語から、環境を守る世界の標語「MOTTAINAI」を提唱しました。リデュース、リユース、リサイクルという環境活動の3Rとかけがえない地球資源に対するリスペクトの念が込められている言葉が「MOTTAINAI」です。

便利で安価なプラスチックを全廃することは現実的ではありません。しかし、増大する一方のプラスチックを放っておいてよいはずはありません。プラスチックを作るための資源も有限であり、とても「もったいない」。

今回は、レジ袋についてみていきます。環境省の調べでは、レジ袋の有料化に賛成する消費者は過半数となっていますが、有料化に反対との意見も聞かれます。レジ袋をごみ袋として、または生ごみを入れる小袋として再利用しているという理由があげられます。ただし、収集に出されたごみ袋を開けてみると、何重にもくるまれた状態のものが多く見つかります。確かにレジ袋を再利用してはいるのですが、日常で多くのレジ袋を消費している証拠でもあります。買い物の際にマイバッグを持参すればレジ袋は断ることができます。心がけ次第でプラスチックの削減に協力できるのですが、マイバッグ

持参の取組は充分には広がっていません。そこで登場したのが、レジ袋の有料化です。

今では自主的に、または地方公共団体と協力して有料化するスーパー等の小売店も増えていますが、環境省は全国一斉の取組が必要としています。和歌山県でも富山県、山梨県等が続いて2009年にスーパー等の事業者と消費者団体、県、市町村とで全県でのレジ袋無料配布中止の協定を結びました。しかしながら大阪に近い紀北地域では、協定に参加していない事業者がレジ袋の無料配布を販売促進の手段に利用したため、有料化からポイント制やレジ袋辞退の呼びかけに後退してしまいました。強制力のない自主的な協定の限界です。

今年8月、環境省はレジ袋の有料化に踏み切ると発表しました。2019年6月に予定されているG20サミットに向け「プラスチック資源循環戦略」を策定し、2030年には使い捨てプラスチック排出量の25%削減を目指すことで、レジ袋の有料化はその手段としていきます。レジ袋の有料化は、プラスチック使用量の削減とポイ捨て根絶の第1歩です。マータイさんは2011年に亡くなられましたが、「MOTTAINAI」の心を忘れずに取組を続けたいものです。

(かねこ・ひろずみ 和歌山大学システム工学部教授/CO2推進室長)

第108回 わだい浪切サロン

和歌山大学・岸和田市地域連携事業

運動で体脂肪を燃やすテクニック

話題提供者 豊岡 示朗氏 (大阪体育大学 教育学部 教授)

日時

2018年12月19日 水 19:00～20:30

場所

岸和田市立浪切ホール 1階 多目的ホール

わだい浪切サロンとは?

毎月第3水曜日(2月と8月を除く)の夜7時、岸和田市立浪切ホールで開催するmini和歌山大学です。申込み不要、参加費無料。

お問合せ先: 和歌山大学岸和田サテライト

〒596-0014 岸和田市港緑町1-1 浪切ホール2F

TEL & FAX: 072-433-0875